

Economic Indicators

発表日: 2020年10月30日(金)

景気動向指数(2020年9月)の予測

～景気は持ち直し継続も、依然として水準は低い～

第一生命経済研究所 調査研究本部
 経済調査部長・首席エコノミスト 新家 義貴
 (TEL: 03-5221-4528)

景気は持ち直し

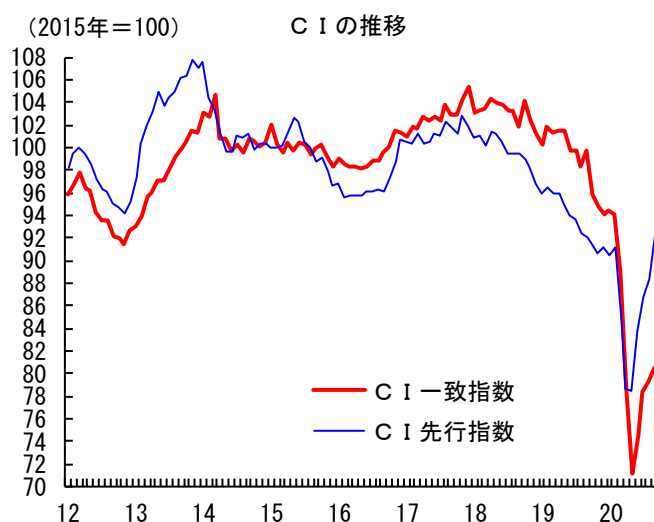
内閣府から11月9日に公表される2020年9月の景気動向指数では、C I一致指数を前月差+1.3ポイントと予想する。6月の+3.2ポイント、7月の+3.9ポイント、8月の+0.9ポイントに続いて4ヶ月連続の上昇となるだろう。内訳では、生産財出荷指数、鉱工業生産指数、耐久消費財出荷指数、輸出数量指数など、生産・輸出関連系列の押し上げが大きい。海外経済の持ち直しを受けて輸出が増加し、自動車を中心として生産活動も上向いていることが影響している。

生産予測指数において10、11月とも上昇が見込まれていることから考えて、目先、C Iは上昇が続く可能性が高い。3～5月にかけての景気の落ち込みは極めて大きかったが、2020年5月を景気の谷として、足元では既に景気拡張局面に転じている可能性が高い。もともと、景気の拡張・後退はあくまで景気の方角性を見るものであり、水準の議論とは別物であることに注意が必要である。実際、4ヶ月連続でC I一致指数は上昇するものの、3～5月にかけての落ち込みの半分も取り戻せていない。今後拡張局面が継続したとしても、景気的水準は低いまま、新型コロナウイルスの感染拡大前の水準に戻るには相当の時間がかかるだろう。

基調判断は12月分で上方修正か

内閣府によるC I一致指数の基調判断は「下げ止まり」が予想される。8月に、それまでの「悪化」から上方修正されたが、9月もその判断が継続する見込みである。

また、仮に今後も順調に景気の持ち直しが続く、C I一致指数も上昇傾向で推移するのであれば、12月分で「上方への局面変化」へと基調判断が上方修正、さらに翌21年1月分では「改善」に上方修正される可能性が高いだろう。



(出所)内閣府「景気動向指数」

(注)直近の2020年9月は第一生命経済研究所による予測値

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。